QAアウトソーシング業者選定ガイド・2026

発注範囲から業者比較、テスト資産の引き継ぎまで

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

候補の業者に同じ範囲を示し、回答と証憑を比較して発注条件を決めます。

QA外注を準備する製品責任者、開発リーダー、購買担当者

目次

01 委ねる仕事を一文で定めます 3

02 同じ範囲で提案を受けます 4

03 結果を誰が検討するのかを尋ねます 5

04 自動化は次の失敗の扱いまで確認します 6

05 要員と引き継ぎの条件を併せて比較します 7

06 点数より未確認の条件を解消します 8

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

委ねる仕事を一文で定めます

見積もり依頼の出発点は、必要な人数よりも解決すべき問題にあります。判断基準がないのか、実行する人が足りないのか、繰り返しの検証に時間がかかっているのかを、まず見極めます。複数の問題が重なる場合は、業務と成果物をそれぞれ分けて依頼します。

現在の問題	依頼する業務	受け取るべき結果
チーム間でリリース基準が異なる	診断・プロセス設計	検証の優先順位と判定基準
検証要員が足りない	専任の実行・欠陥管理	シナリオ結果と残存リスク
回帰実行が繰り返し発生	自動化の構築・運用	実行資産と失敗分析の手順

記入例

決済改修のリリースを控え、社内チームは開発者テストを担います。外部チームには、購入・取消フローの回帰実行と欠陥報告、リリース判断の根拠整理を依頼します。自動化の構築は今回の範囲から除外します。

発注ブリーフ

項目	自社チームの条件	準備担当
製品とリリース日程		
解決すべき問題と委ねる仕事		
社内が引き続き担う仕事		
既存の文書・テスト資産		

ブリーフを読んだ候補がそれぞれ異なる仕事を説明するなら、見積もりの前に業務の定義をそろえます。性能・負荷、セキュリティ点検、要件の復元は必要な準備が異なるため、該当の有無を別に記入します。

同じ範囲で提案を受けます

範囲は、数と名前を併せて書いてはじめて比較できます。主要フロー三つという数字の横にどのフローかを書き、各フローをどのプラットフォームで確認するかを対応付けます。すべてのシナリオをすべての端末で実行する必要があると、あらかじめ仮定しません。

範囲の項目	候補に求める回答	確認する証憑
対象のビルド・製品領域	バージョンと領域の境界	ビルド識別子・対象一覧
フロー・シナリオ・環境	優先順位と組み合わせごとの適用範囲	検証範囲表
再テスト	修正確認と回帰確認の範囲	含まれる回数・対象
除外・変更	除外の理由と変更の検討方法	変更要請・承認の記録

共通検証範囲表

主要フロー	環境・組み合わせ	確認する結果	含む・除外
記入例：購入取消	モバイルウェブ / 合意したブラウザ	取消の状態と金額が注文に反映される	含む

リリース日が近い場合は、失敗時の影響が大きいフローから順序を決めます。データが変わったり新しいビルドが出たりしたら、既存の結果のうち再確認する対象を記録します。期間型の契約では、初期範囲に加えて、翌週の優先順位を決める手順も比較します。

結果を誰が検討するのかを尋ねます

テスト実行、欠陥の検討、リリース判断の根拠作成、リリース承認は、それぞれ異なる役割です。一人が複数の役割を担う場合でも、文書上は区別します。業者側の肩書きよりも、実際に結果を読む担当者と不在時の代替経路を確認します。

尋ねる質問	求める証憑	検討するポイント
検証できなかった点も報告しますか？	シナリオ結果表	BLOCKED・NOT RUNを別に表示
リリース保留の根拠は何ですか？	個人情報を削除した報告書の見本	未解決の欠陥・未検証範囲・再判断の条件
結果を検討するのは誰ですか？	役割表と検討手順	作成・検討・承認の役割を区分

役割と報告の合意表

業務	実施担当	検討・承認担当	周期・連絡経路
テスト実行			
欠陥深刻度の検討			
リリース判断の根拠作成			
リリース承認			

> **判定と実行結果を区別します**
>
> シナリオはPASS / FAIL / BLOCKED / NOT RUNで記録します。リリースメモにはREADY / READY WITH CONDITIONS / HOLDで判断を残します。合格件数を足し合わせただけでは、リリース判定は決まりません。

自動化は次の失敗の扱いまで確認します

自動化の提案には、最初の構築後に誰がどのような失敗を処理するのかが含まれている必要があります。製品の欠陥、テスト環境、データの競合、スクリプトの変更を区別できてこそ、次の実行の結果も活用できます。

確認項目	求める説明	確認資料
実行条件	デプロイ・定期・手動の実行タイミング	パイプラインと実行コマンド
データとアカウント	準備・隔離・クリーンアップの方法	テストデータの手順
不安定な結果	繰り返す失敗の分類と復旧担当	失敗分析の記録
維持と引き継ぎ	変更対応の範囲とリポジトリの所有権	維持業務・引き継ぎ一覧

自動化運用の確認表

対象フロー	実行タイミング	失敗分析担当	引き継ぐ資産
記入例：注文作成	デプロイ候補ビルドごと	QAが分類後、開発担当に割り当て	スクリプト・実行設定・データ準備手順

ウェブ・モバイル・APIのうち、どの階層で確認するのかも尋ねます。画面変更が多いフローや繰り返しの頻度が低いフローは、手動検証のまま残すことができます。PlaywrightやSelenium、Appiumといったツール名だけでは、維持の方法を説明したことになりません。

要員と引き継ぎの条件を併せて比較します

常駐かリモートかは、アクセス環境、データの取り扱い、実機の所在、共同作業の時間帯で決めます。要員数が変わる契約では、製品の文脈と欠陥履歴を引き継いでいくリードを確認します。終了後も、社内チームが同じ資産を実行できる必要があります。

運用条件	合意する内容	確認方法
アクセスと共同作業	アカウント・社内ネットワーク・共同作業の時間帯・緊急連絡	着手前の実際の接続確認
規模の変更	回帰が集中する区間・固定リード・代替担当	段階別の要員計画
引き継ぎと終了	原本・リポジトリ・実行方法・問い合わせの対応	社内担当者による実行確認

終了・引き継ぎ点検表

引き継ぎ資産	保存場所・形式	受け入れ担当	実行・確認結果
テストケース・欠陥台帳			
自動化スクリプト・実行設定			
判定基準・報告の原本			
データ準備・問い合わせ対応の手順			

文書の受領と引き継ぎの完了を同じ意味で扱いません。リポジトリを開いてテストを実行したうえで、アクセスの失敗や欠落した項目を記録します。IXCはリモートを基本としつつ常駐にも対応し、テスト資産と運用方法の引き継ぎ後、4週間は問い合わせ対応を続けます。

点数より未確認の条件を解消します

候補ごとの回答を同じ表に移したうえで、範囲の違い、証憑の不足、追加協議事項に分けます。回答を得られなかった項目は未確認として残します。提案書を受け取ったという理由だけで、必須条件を満たしたものとして扱いません。

業者比較表

比較軸	候補と回答	証憑・状態	追加の質問
委ねる仕事と範囲			
判定根拠と検討担当			
自動化の運用方法			
常駐・リモートと要員の変更			
テスト資産の引き継ぎ・問い合わせ対応			
金額・変更条件			

> **記入例**
>
> 候補Aは実行と欠陥報告を含めていますが、自動化の引き継ぎ範囲は未確認です。候補Bは自動化の構築まで提案しました。共通範囲を実行・報告にそろえた再見積もりと、自動化の別途見積もりを依頼したうえで比較します。

- 状態は確認済み / 要補完 / 未確認 / 該当なしで記録します。
- 選定記録には、選んだ理由、残る条件、その条件を確認する担当と日付を書きます。
- 相談の際は、発注ブリーフと主要フローの一覧を共有します。

発行・ご利用について

製品とリリース日程、主要フロー、社内チームとの分担をもとに、検証範囲と専任チームの運用方法をご提案します。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/qa-outsourcing

www.ixc.co.kr/ja/assets/qa-outsourcing-guide

参考資料

IXC QAアウトソーシング

https://www.ixc.co.kr/ja/services/qa-outsourcing

ISTQB CTFL v4.0.1：テスト計画・報告・トレーサビリティ

https://istqb.org/wp-content/uploads/2024/11/ISTQB_CTFL_Syllabus_v4.0.1.pdf

Playwright: Best Practices

https://playwright.dev/docs/best-practices